

1学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

1学年 第52号

2016. 1.15 (金) 発行

真田丸の時代背景 後藤美穂

右の図は一体何でしょうか？

戦国時代が好き！という人や1月10日(日)から始まったNHKの大河ドラマ『真田丸』を見た人はピンとききましたね。そうです、真田家の家紋、「真田六文銭」です。

真田氏は「死もいとわず、命をかける覚悟で合戦や日頃の交渉事に臨む」ということを示すために、この家紋を採用したといわれています。「六文銭」は仏教の世界でいう「六道銭」です。死者が死後七日後に渡るとされる三途の川の渡し賃(通行料)で、死者を埋葬するときに遺体と一緒に埋葬するものです。死者に六道銭を持たせると清く成仏できるという考えがありました。ここから真田氏は自分たちの「命をかける覚悟」を示すために、「六文銭」を家紋として採用したようです。

さて、NHKの大河ドラマ『真田丸』は1567年(永禄10年)～1615年(慶長20年・元和元年)を時代背景としています。いわゆる、戦国時代、安土桃山時代を経て、江戸時代に入り、徳川幕府が豊臣勢力を滅ぼし、徳川氏が将軍としての地位を不動のものとしていく激動の時代です。中学校の時の歴史の授業でやったことを思い出しながら、この頃の出来事を年表でざーっと見てみましょう。

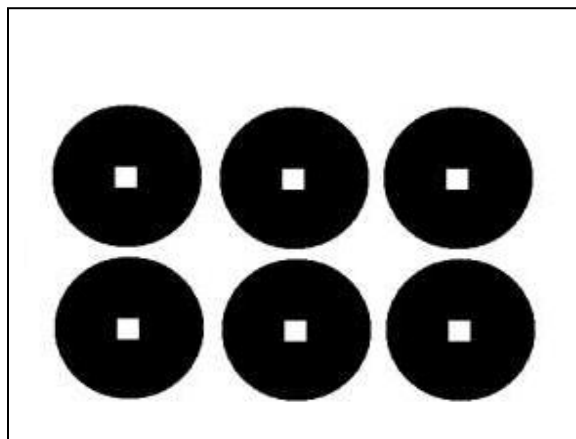
1567年(永禄10年): **真田信繁(真田幸村)誕生**。真田氏は戦国武将武田氏の家臣。

1573年(元龜3年): **三方原の戦い**。

武田信玄軍と徳川家康・織田信長連合軍が激突。当時最強と言われた武田騎馬隊の前に家康大敗。

武田信玄死去。武田勝頼が武田氏当主となる。

室町幕府滅亡。



1575年(天正3年): **長篠の戦い**

織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼軍が激突。馬防柵、鉄砲を駆使した織田信長に、泣く子も黙る武田の騎馬隊が大敗。

1582年(天正10年): 武田氏滅亡。真田昌幸(繁信の父)、織田信長に臣従。

本能寺の変。織田信長自刃。

昌幸は上杉家、北条家と臣従先を変え、最終的に徳川家康に従属。

1583年(天正11年): **賤ヶ岳の戦い**

羽柴秀吉軍と柴田勝家軍が激突。秀吉が勝利し、信長の後継者としての地位を確立。

1587年(天正15年): 真田昌幸、秀吉に臣従。信繁は人質として秀吉のもとへ。

その後、秀吉の命令で昌幸は家康の配下となる。

1593年(文禄2年): 豊臣秀頼誕生。

1598年(慶長3年): 豊臣秀吉死去。

1600年(慶長5年): **関ヶ原の戦い**

昌幸と信繁は西軍(石田三成側)、信幸(信繁の兄)は東軍(家康側)に分かれて戦う。東軍が勝利。

1603年(慶長8年): 徳川家康征夷大將軍となる。

1614年(慶長19年): **大坂冬の陣**

信繁、真田丸(大坂城の砦)を築き豊臣方として奮戦する。

1615年(慶長20年・元和元年): **大坂夏の陣**

信繁は家康の本陣に迫る活躍を見せるが、力尽き、玉砕する。豊臣秀頼、淀君自害。

激動の時代だったことが分かりますね。戦国時代は下剋上の時代、実力主義の時代です。合戦も日常茶飯事です。混沌とした時代を生き抜くには、強い覚悟が必要だったと思います。だからこそ、「六文銭」を家紋として、その決意を自らにも周囲にも示したのでしょうかね。

さて、みなさんは「覚悟」をもって自分の道を進めますか? 『真田丸』が最終回を迎える頃は、2年生の12月ですね。その頃までどんな成長をしているか、楽しみにしていますよ。

1年12月医進セミナー参加者感想

昨年の12月27日～28日にかけて、天童市の山形県青年の家で県内の高校から医学部志望の1年生を集めた医進セミナーが開催されました。本校からも医学部志望者が参加し、県内各校の生徒たちと交流し講義や講話を受けてきました。参加者の感想を抜粋して紹介します。

1組 K・Tさん

医進セミナーに参加してまず思ったことは「レベル高いな」ということです。

なぜそう思ったのかというと、一つ目は話している内容です。ほとんどの人が予習の数学のテスト問題について周りの人と喋っていました。僕らが普段会話しているような内容とはまったく違うものでした。

二つ目は、自学時間での集中力です。セミナー中、自学時間は合計で420分、つまり7時間分もあったのですが、その間はだれ一人として喋っている人はいなく、それぞれの勉強に取り組んでいました。僕はその時、勉強するときは環境が大事であるということを身を以て実感しました。

医進セミナーを通して、上で言ったことはできてあたりまえのことなんだと実感させられました。この経験は、僕自身にとってとても良い刺激になったと思います。

この感覚を忘れずに生活していきたいと思います。

2組 S・Mさん

今回の医進セミナーでは、他校の医学部を目指す人たちと一緒に講演を聞き、講義を受けました。講演では、医学部を目指す動機について「今はボヤッとしたものでいい」と言われ、少し安心しました。私は小学校の時に医者になりたいと思ったのですが、理由を尋ねられると自分でも疑問を感じてしまいます。なので、これからそこを明確にしていきたいです。

2日間、山東、日大、米中の人たちと同じ班で行動しました。興譲館が一人であることにはじめは不安でしたが、すぐに打ち解けお互いの学校の話などたくさん話すことができました。普段、他校の人から学校の様子をきくこともないので、よい交流ができました。

2日間のセミナーで他校の人の勉強の仕方を見て、とても刺激を受けました。今まで以上に医学部を目指すために勉強する意欲が増しました。今回出会った人たちはみんなライバルになると思うので、負けないように頑張りたいです。

3組 U・Tさん

今回医進セミナーに参加して自分の生活を見つめ直し、進路について考える機会を得ることができて本当に良かったです。それと同時に、忙しいと言い訳をして自分を甘やかしていたことを恥ずかしく思い、深く反省するきっかけにもなりました。志の高い仲間とも出会い、いい刺激にもなりました。

一日目は、小林英司先生からの講演をお聞きしてその後駿台予備校の先生から数学の講義を受けました。小林先生の講演は、まず大学の入試試験の面接のシミュレーションから入り、自分の生い立ちや医師としてのあり方、今後の医療の話へと、どんどん広がっていきました。私は最初、先生は著名な方だとうかがっていたので少し緊張していたのですが、まったく堅苦しい感じはせず、むしろ親近感が湧きました。先生の熱い気持ちが入った言葉はすべて重たく、心に響くものばかりでしたが、その中でも印象的だったのが「医師になりたい理由なんて、最初からしっかり決まっていなくても、憧れだけでもいい。」というものです。わたしはずっと「勉強しないと…」という気持ちだけが募って焦っていたのですが、この言葉を聞いて気持ちが楽になりました。

もちろん、これはただ憧れのままではなく、段々と決意や目標をしっかりと見据えたらがむしやりに勉強しろよということです。私はどちらかというややる気の波が激しくて突っ走ってしまったり、変に力が入って無理をしすぎる人が多いので、安定して勉強に取り組めるようにしないと、とつくづく感じました。

二日目は、英語の講習と山形の地域医療の現状について、あとは現役医大生からお話をうかがいました。二日間の講習をうけて感じたことは、正直、興譲館の先生の方が分かりやすいなということでした。やはり普段の授業をどれだけ味わって自分のものにするかがカギなんだと改めて思いました。

勉強だけではなく、同じ部屋に泊まり、一緒に行動したグループ（みんな他校で初対面）のメンバーはとてもおもしろく、すぐに馴染むことができ会話も弾みました。朝早く起きて一緒に勉強したりしてとても楽しかったです。他校の人達と交流できる貴重な機会を得られて本当に良かったです。

3組 T・Tさん

今回のセミナーで、医師になるのはどんなに大変かを知るとともに、山形県の医師不足も知り、医師になってみせるという気持ちがより強くなりました。また慶応義塾大学から来ていただいた講師の先生からは、医学部の面接について教えていただいたり、「医学部に入るための勉強をしていては医学に進歩はない。」というお言葉も頂きました。医師になってからも外国に留学したりいくつもの大学の教授をやっている先生で、強いあこがれを持ちました。さらに、山東から自治医科大学にいった医学生の話では、医学部受験の厳しさを具体的に話していただきました。高校生の僕たちのこともよく分かっている、今からでも実践できる勉強のアドバイスを頂きました。英語の数学の講義では、東大レベルの問題を解説を聞きながら解いていき、力にすることができました。そして、2日間同じ目標を持った他の学校の生徒と過ごし、絶対負けたくないという気持ちにさせられました。高い目標を持ったからには、諦めることなく最後までその目標に向かって努力し続けようと思いました。そのためにあと2年、一日一日を怠ることなく生活していきます。

4組 M・Sさん

私の今回の一番の収穫は、他校の同学部志望者と友達になれたことです。山東の子2人、新庄北の子1人と同じ部屋でした。3人それぞれに尊敬する部分がありました。気が合い、たくさんしゃべりました。課題を見せ合ったりもしました。とても刺激的で、このメンバーでこの生活するのは楽しいし充実しているなあと感じました。1日目の夜に、私は、この人たちとライバルなのか？仲間なのか？とふと考えてみたのですが、今はどっちもかな、と思いました。でも、医学部に受かったら医師という職業上、仲間になれます。もしかしたら、今日出会った子と仕事をする日が来るのかもと思うと、嬉しいです。慶応大の小林先生が「最初のうちは、夢というのはぼんやりと憧れでいい。そのうち大志として固まってくる。」とおっしゃっていましたが、私にとって医師になりたいと思うおぼろげな動機の中の1つは、「この2日間で共に励んだ友達と、将来同じ医師として仲間でありたい」ということです。これからは、大志を固めます。

セミナーに参加した皆は、それぞれ大事なものを得てきたようです。3年生はいよいよ明日からセンター試験が始まります。3年前、「大学受験なんてまだまだ先」と思って興譲館に入学してきた彼らは、今頃「高校3年間はあっという間だった」と思い返していることでしょう。先輩たちの背中を見て、自分の未来をしっかり考えてみましょう。